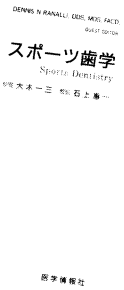
スポーツ歯学

編者：Dennis N. Ranalli
校閲：大木一三
監訳：石上惠一
発行：医学情報社
定価：7,725円



スポーツ歯学全般を紹介した教科書として

平和な時代，繁栄する国で，スポーツは行われ，そして発展する。戦後，日本では東京オリンピック，札幌冬季オリンピックそして昨年アジア競技大会が広島で開催され，2年後には長野冬季オリンピックが予定されている。この50年間平和国家日本が維持されてきた証しと私は受けとめている。

また，最近はスポーツ競技をテレビで観戦し，各種のメディアによりスポーツ情報は瞬時に知ることができる。経済的ゆとりと共に観ることから参加する機会が多くなり，学校のクラブ活動や地域住民のレクリエーション，職場のサークル活動等のスポーツにも過激で，接触するスポーツが行われるようになった。

そして我々の身辺にも「選手」と自称する人々が年々増え，スポーツ傷害，事故により歯科医院に血で口を真っ赤に染めて駆け込むケースをしばしば経験する。

それ故「スポーツ傷害は，その発生が予測可能であり，傷害の予防，処置に対処できる専門家が必要になってきている」と著者は訴えている。

さて，この翻訳本の内容について，その前半は顎顔面，口腔内の傷害に対する予防の大切さから，マウスガードの製作法と応用について特別丁寧に説明されている。また，マウスガードは歯軋りの緩和や，ガン患者，ＴＭＪ症候群にまで応用でき，単純な装置故に有用範囲が広いと推奨している。そして矯正装置を装着した患者が他人を傷つけないためにマウスガードを使用することが，大変大切であることを私は付け加えたい。

後半はスポーツチームデンティストの役割として，何故歯科医師がスポーツ歯学に関係するようになったのか，その背景と責任，そして歯科医師が競技者を治療するだけでなく，傷害の発生を予防することができるという個人的満足を考えると，非常に価値があることで，社会への貢献ができ，歯科業務の幅が広がると著者は自負している。

また，競技中の負傷に対する診断と処置方法についてスポーツ傷害で一番重大なのは天然歯の喪失であり，開業医の臨床応用の一つとして最も生物学的に保存性のあるアプローチとして骨に結合したインプラントを挙げている。

最後にスポーツ歯学に関与する法的考察が必要であり，大部分の歯科医師が何らかのスポーツ活動に携わる患者を扱うため，法的問題を熟知する必要があると述べ，インフォームド・コンセントあるいは記録の保存，守秘義務の重要性を説いている。

以上，本書はスポーツ歯学全般を紹介した教科書と評価できる。スポーツ歯学研究者を始めとし，今後積極的にスポーツ歯学に取り組もうとする開業医，また歯学生にとって必需書となり，スポーツ歯学の礎となるであろう。

（会誌編集委員・小島敏嗣）

BOOKS